

New year greeting as a president of The 9th World Congress on Inflammation, WCI09

*Kouji Matsushima**

第9回国際炎症学会 (The 9th World Congress on Inflammation, WCI09) 開催に当たって

松島 綱治*

2009年の年頭にあたり新春のお慶びを申し上げます。いよいよ第9回国際炎症学会：The 9th World Congress on Inflammation (略称 WCI09) 開催の年になりました(7月6日(月)～7月10日(金), 5日間の日程で京王プラザホテルにて開催)。日本炎症・再生医学会の会員, 第9回国際炎症学会組織委員, Scientific Advisory Board Members, プログラム委員, 炎症研究振興会, 本会事務局をはじめとする関係者各位にこの間の暖かいご支援に心からお礼を申し上げます。

WCI09は山本一彦先生(東京大学大学院教授)を会長とする第30回日本炎症・再生医学会年会との合同開催でもありますが, 国際学会は既に内閣府日本学術会議との共催が決定しているとともに, 日本免疫学会, 日本臨床免疫学会, 日本再生医療学会など多くの関連学会のご後援もいただいております。

「炎症・修復・再生医学研究の新機軸, Innovative Research of Inflammation, Repair and Regenerative Medicine」をメインテーマに, 炎症基礎研究の到達点(限界と最近のブレイクスルー), 炎症臓器修復・線維化機序への新視点, 炎症臓器の再生医学・医療, 新規炎症疾患治療標的と創薬・ドラッグデザイン等を主要題目としてプログラム編成を行っており, 既に2nd Circularならびに Web-Site <http://www2.convention.co.jp/wci2009/> でその概要をお知らせいたしております。

Keynote Lectureは世界を代表する基礎免疫・臨床免疫・再生医学・創薬開発研究者である岸本忠三, 山中伸弥, 谷口維紹, Abul K. Abbas, Thomas J. Schall, Robert M. Nerem 先生がたにお願いしております。また, 6つのメイン Morning Symposium (内4つが JSIR-Sponsored Symposium), 6つの国際炎症学会連合加盟 Society による Society-Sponsored Symposium が決定いたしております。更に本学会では企業スポンサーシンポジウムとして4つの大きな Industry-Sponsored Symposium, 7つの Luncheon Seminar, 1つの Evening Seminar, 4つの Early Birds Seminar がございます。これらは従来の企業スポンサーシンポジウムと比べ, より Scientific Session になるように企画いたしております。

一般演題から selection された演題は Workshop で口頭発表していただき, 上位10人には Best Poster Award (certificate と cash award) を差し上げる予定でございます。また, 若い研究者には Young Investigator Award に申請して, Award Finalists 6人には award session で競っていただき, 1等賞には US\$1,500, 2等賞には US\$1,000, 3等賞には US\$500 の cash award がついております。また, Finalists 6人全員に参加費のみならず旅費, 京王プラザホテル宿泊4泊のホテル代の免除, バンケットへのご招待をさせていただきます。是非とも貴教室ならびにお知り合いの若手研究者の方々に応募していただくようお願いいただけますとありがたく存じます。応募規定は Web-site にございます。

ポスターセッションの2日目には Wine (あのワイン界では有名なレストラン シュヴァリエからの提供) & Cheese Poster Session も企画いたしております。素晴らしいワインの tasting をしながら Science を語り合しましょう。

* President of The 9th World Congress on Inflammation, Department of Molecular Preventive Medicine, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo 第9回国際炎症学会会長, 東京大学大学院医学系研究科分子予防医学教授

今後、会員の方々には様々なお願いをさせていただくことがあるかと存じますが、より一層のご支援をお願い申し上げます。最後に、一人でも多くの方々がWCI09にご参加くださり、日本の炎症・再生医学研究ここにありと国際学会を盛り上げてくださることを重ねてお願い申し上げます。

追記

IAISの組織委員会への出席とWCI09の広報を兼ね、昨年9月21-24日にWestfields Marriott, Chantilly, VA, USAで開催されましたThe 15th International Conference of the Inflammation Research Association (米国炎症学会)に参加してきました。この学会には300人ほどの参加があり8割が企業からでした。日本からも数社の方々が情報収集に参加しておられました。ここでもTregとTh17の話が沢山ありましたが、それ以外には抗体医薬、分子標的抗炎症剤開発、痛み、炎症疾患実験モデルなどが主なテーマでした。会はそれなりの盛り上がりを見せながらもアメリカ製薬企業にも不景気風が吹いている様子がひしひしと伝わってきました。海外からのWCI09参加者への支援、配慮をしなければならない、と痛感いたしました。

また、昨年11月10-14日には開発が著しい中国の上海、蘇州に中国炎症学会関連の方々にお会いするために行って参りました。WCI09への参加と、国際炎症学会連合 (International Association of Inflammation Societies, IAIS) への加盟のお願いをいたしました。WCI09のScientific Advisory Board MemberのProf. Xuetao Cao (中国免疫学会の現会長)と中国薬理学会の炎症グループのリーダーProf. Jiangping Zuo (以前、大阪大学 浜岡/藤原研究室に留学していた)らに、WCI09への全面協力と Society-Sponsored Symposium の開催、最低30人の代表団派遣をお願いいたしました。一方、韓国、台湾の炎症関連の方々からは本会の森田事務局長を通してWCI09への協力の意思表示があり、参加、シンポジウム開催への興味を示しておられます。WCI09が日本炎症・再生医学会のみならずIAISもより国際組織として発展するきっかけとなることを祈念いたしております。